

## 演出台本

上（下）手「袖」は舞台裏、「端」は舞台上のことです。

全編を通して、小田のみピンマイク、その他の人は手持ち。

シネマ終了。暗転。ローテ開始（指揮者も入る）。両側のドアを開け、ローテが終わったら  
ドア閉める。黒服、上手袖に退場、服とサングラスを準備し、アタッシュケースを持って  
登場、上手端で待機。警察、下手袖に退場し、服と帽子とマイクを準備して待つ。

小田、お初、友美、下手側に移動。

↓ここから録音。

小「れすとらん北斎」

初「い、い、いー、いー、いー…イカ！」

友「(戸惑いながら) …カチューシャ」

小「シャ、か。シャかヤ、どっち？」

友「好きな方で良いよ」

小「わかった、それじゃあ…」

↑ここまで録音

スポット付く。

小「ジャングルクルーズ」

初「ず、ず、す、す…寿司！」

友「…ショー」

小「ジョリートロリー」

初「林間学校！」

友「ウォルト・ディズニー。……なあ、こんなことして意味あんのか？」

初「何言ってるの友美ー！（小田のモノマネ）ディズニーランドしりとりを極めるのがデ  
ィズニーランドを楽しむ第一歩だって（モノマネ終わり）、小田も言ってたじゃん」

小田、腕を組んで深く頷く。

友「そう（素早く）、まずそのディズニーランドしりとりなんだけど」

初「ウン」

友「小田のさあ、その、レストラン北斎？とか…なに？」

小「知らんのか？ふむ、（早口）レストラン北斎というのはな、ワールドバザールにある、  
ディズニーランド内で唯一和食が食べられるレストランでな、繁忙期には予約しないと入  
れないほど人気なんだ。（加速）ランド内ということに限らなければシーの方でもレストラ  
ン櫻ってところで和食が食べられるんだが」

友「(さえぎって) 分かった、分かった。私が悪かった。じゃあ、小田は良いとして、お初」

初「え？」

友「その、イカとか、寿司とか、絶対ディズニーランド関係ないだろ？」

初「そうだけど、美味しいんだよ？」

友「……ああ、そうだな（諦観）」

小田とお初、静止。

友「（下手側に歩み出てモノログ）見ての通り、私たちはディズニーランドを楽しむ方法を学んでいるところだ。私とお初は、今度ディズニーに初めて行くから、（喋りながら小田の近くへ）その楽しみ方を、大学内でディズニーオタクと有名な、この小田に教わっているワケなんだが…本当に大丈夫なのかなー…（元の位置に戻る）」

小「（喋ると同時に動き出す）よし。しりとりは十分できるようになったし」

友「ホントか？」

小「ディズニーランドを楽しむ4つのコツ・その2に進むとしよう」

初「おお！」

小「ディズニーには欠かせない、アレを買いに行くよ！」

初友「アレ？」

小「（お初の手を引いて下手に向かいながら）ホラ、行くよー！」

初「（ウキウキ）えーナニナニー？」

友美「え、お初、ちょ、まってー！（慌ててついていく）」

スポット消える。舞台照明暗転。

舞台照明「暗く」の状態に戻す。

黒服、上手から登場し、中央に向かい、指揮台前あたりで止まる。

三人、下手から登場。小田とお初は手をつないだまま。歩き出したらスポット。

小「（お初の手を放して）さ、ついたぞ！」

友「いや、着いたって（周りを見回して）どこだよここ？どう見てもディズニーと関係なさそうなんだけど」

初「どんなお店だろうねぇ？」

黒服にスポット。

初「あ、あれ店員さんかな？」

友「（お初に）いや絶対怪しいだろアレ。（小田に）ホント大丈夫なの？」

小「まあ見てな」

小田、悪そうに中央に歩いていく。

お初、無邪気に付いていく（ペンギン？）

友美、お初の手を引っ張って小田から引き離しながら付いていく。

友「（小田の歩きを実況中継）もう早速歩き方から怪しいんだけど」

小田が黒服の近くまで来たところで三人ストップ。

小「（悪そうに）ブツはあるか」

友「ほらやっぱそういうのじゃん」

黒服、手に持ったアタッシュケースを見せ、「金よこせ」というような仕草をする。  
小田、アタッシュケースを開けて札束を見せる。  
小田、自分の次の台詞を言うまでの間にアタッシュケースを閉じ、黒服と交換する。  
友「わっ、札束」  
初「(急に冷静に)私、お金持ちな人好きなのよね」  
友「何その暴露」  
初「(通常に戻り)だから友美がお金持ちになってくれたら一番良い」  
友「贅沢か」  
小「(二人の方を見て) シッ！今大事なところなんだから」  
お初と友美、ハッとして黙り、小田の方を見る。  
小「(黒服の方を見て) さあ、とうとうご対面だよ」  
黒服、金のケースを床に置き、カチューシャのアタッシュケースを開く準備をする。  
友「(割と楽しみにしてた) こ、この中にディズニーランドに欠かせないアレが？」  
初「(浮足立っている) おお…ワクワクするねえ」  
黒服、ケースを開く。  
初「わぁ！」  
友「え？」  
小「おお、上物のブツやな…」  
友「カチューシャだよ？ どう見てもカチューシャだよ？」  
小田、ケースからカチューシャを取る。  
黒服、ケースを閉じ、金のケースも持って上手に退場。  
小「(カチューシャの匂いを嗅いで) やっぱりホンモノは、匂いが違うのお」  
友「それ匂いとかないよね？ 八割がたケースの匂いだよね？」  
突然のサイレン。バンドの担当者、警察帽を被る。  
小田、焦って辺りを確認する。  
お初と友美、困惑してキョロキョロする。  
小「まずい、見つかった！」  
友「誰に！？」  
三人のスポット消える。  
舞台照明明るくなる。  
バンド内の警察帽子被った担当者(近藤朗大)「警察だ！」  
小田、一度上手端にはけた後、バンドの台詞が終わった後くらいにローテに戻る。  
担当者(横井美友)「警察だ！」  
担当者(松尾大和)「警察だ！」  
担当者(小平佳乃)「警察だ！」  
(バンドの1列目を下手側から順に1324、2,4列目を4231と番号を振っておく)

グループ1「(グループ全員で立ち上がりながら)警察だ！」

グループ2「警察だ！」

グループ3「警察だ！」

グループ4「警察だ！」

バンド、全員言い終わったら犯人を捜す仕草をする。

小田、ローテに入る。

警察、下手袖から登場。ドアの前で待機。

友「(全員言い終わった後で)(結構叫ぶ)多いわ!どんな大事件だよ！」

初「(キョロキョロして)あれ、小田は？」

友「え?(見回す)あ、アイツ一人だけ逃げたな！」

下手ドア前の警察にスポット。警察(クリス)、マー坊の後ろで探す動き。

警察(マー坊)「(警察手帳でも見せながら)警察だ!麻薬取引の容疑で逮捕する！」

警察、下手端まで移動。クリス、おっちょこちょいなので移動するのに苦勞。マー坊は後輩思いなのでクリスを心配しながら移動するので結局遅い。

初「(下手を向きながら必死に)え、そそ、そんなことしてないよー！」

友「お初、逃げるぞ！」

初「え、でも私たち何も悪いことしてな」

友「してないけど逃げる！」

友美、お初の手を引っ張って上手側に逃げる。

初「えー!？」

上手側のドア開ける。

警察、二人が逃げ出したら中央まで走ってくる。

警察「(中央で止まって少しキョロキョロした後)あっちに逃げたぞー！」

追いかけて始めたらサンバ・テンペラード開始。

警察、初友を追って上手へ退場。上手のドア閉める。

サンバ・テンペラード

サンバ・テンペラード終了。

ドア開ける。

小田、真っ先に上手袖に抜け、パーカーを着る。

警察(松尾大和)「犯人を逃がすなー!探せー！」

打楽器、サイレン鳴らす。

バンド①「走れー！」②「逃がすなー！」③「あっちだー！」④「探せー！」

バンド、残る人も去る人もキョロキョロ犯人を捜しながらローテ。ローテしてしばらくしたら暗転。

バンド、暗転したらキョロキョロやめる。

お初と友美、真っ先に上手からコソコソしながら登場。二人にスポット。ローテが終わったらドア閉める。

初「(後ろを振り返りながら) ここまで逃げれば、大丈夫かな…？」

友「(キョロキョロして) た、たぶんな…。しかし小田はいったいどこに逃げたんだ？」

初「あっ、そうだね。おーい、小田ー？」

初友、中央まで歩いていく。

↓パーカーが着る時間がない場合

初「(コソコソしながら) こ、ここまで逃げれば、大丈夫かな？」

友「(コソコソしながら周りを見て) …追ってきてはないな」

お初と友美、コソコソをやめる。

初「はあー、よかったあ」

友「(お初に頷いてから) …しかし小田はいったいどこに逃げたんだ？」

初「あっ、そうだね。おーい、小田ー？」

初友、中央まで歩いていく。

↑ここまで

小田、ぬいぐるみたっぷり付けた上着を着て、ノリノリで上手から登場。スポットの中に入ってくる。

小「呼んだかーい！」

友「(ビビる)うおお！…怖っ！」

初「小田ー！どこ行ってたのー！」

小「悪いね、警察に紛れて逃げてたのさ」

友「(恐る恐る)で、そのおびたしいミッキーは？」

小「(ノリノリを止めて) あ、コレ？コレね、ショーを見る時の衣装」

初友、首を傾げる。

小「ディズニーランドといえば、ショーを見ない手はないだろ？」

初「ウンウン」

友「まあ」

小「その時にな、例えばミッキーのグッズを身に着けてると、ミッキーがよくこっちを見してくれるんだよ」

初「(興味津々) へえ～」

友「で、その結果が？」

小「(堂々と) コレだあ」

友「ヤバイよね。ミッキーもちょっと目合わせ辛いでしょソレ」

小「さて、それはともかく、ここでディズニーランドを楽しむコツ・その3だ！」  
初「おお！」  
小「ショーといえば、今やってるショーは見てる方も一緒にダンスを踊るタイプのショーだ。だから、事前にダンスを踊れるようにして臨まねばならない」  
友「おお、確かにそうだな」  
初「じゃあ、早速振り付けを教えてよ」  
小「(食い気味に) 甘ああああああい！！シナモンチュロスより甘ああああああい！」  
友「ええ… (ドン引き)」  
初「美味しそうだねえ…」  
小「お前たち、そもそもダンスというものをちゃんと踊れるのか？」  
友「いや…」  
小「そんなんでダンスに加わろうなど、ミッキーワッフルの百倍甘いわあああ！！」  
友「えええええ？ (不満)」  
初「(満足げに) うーん、おなか空いてきちゃったよ～」  
小「と、いうわけで、ただ今からダンスの練習を開始します！」  
友「マジか…。お初、ダンスだっー」  
初「アイス？」  
友「ダンス！」  
小「それじゃあポップなトーンでいくよー！」  
初「(嬉しそうに) ポップコーン!？」  
友「ああ～… (頭を押さえる) 始まったか…」  
友美、上手側へ歩いていく。  
初「あ～お菓子の匂い～」  
お初、フラフラと下手側へ退場(歩き方)。下手側のドアを開けてお初を入れる。  
小「よおおっし、それじゃあ！(周りを見る) ……って、あれ？お初がいない？」  
上手の方にいる友美にスポット。  
小「友美ー？お初どうしたー？」  
友「ああ、お菓子を探しに行った」  
小「お菓子？え、どういう？」  
友「ああ、ごめんな。よくあることなんだ。でも大丈夫(腕時計を確認しながら) 昼ご飯を食べてから(早口) 4時間25分35秒だから、んー、3分18秒もあれば帰ってくるよ」  
小「… (啞然)」  
友「ん、どうした？」  
小「いや、よくわかってらっしゃることで…」  
友「まあ、付き合いが長いからどうしてもな。さ、お初がいない分私がダンス覚えるから

さ、早速はじめよう」

小「お、おう…」

友美、ローテに入る。

小「(下手へ移動) よ、よし、気を取り直してダンスやるよ！それじゃあなごすいの皆さん、ノリノリで宜しくゥ、(止まって) ミュージック、スタート！」

小田、下手側にはける。スポット消す。

舞台明転。じょいふる流れ始める。

小「(3小節目に入るくらいで登場しながら)(マイクの音量を上げて)ストオオオッフ！！  
ストップ、ストップ、ストオオオッフ！！！」

バンド、小田の声が聞こえたらストップ。(三小節目くらいか)

SPで1番に割り振られている人は、小田の声がかかってから一小節くらい吹き続ける。

バンドと指揮者、怪訝そうに小田の方を覗き見る。(手を付けて頭を横に振ったりするべし)

小「(バンドの方に歩いていきながら) みなさーん、誰が貴方たちは踊らなくていいと言ったんだ。さあ、踊るぞ！」

小田、腕を振り上げ、えいえいおーの「おー」だけみたいな動きをしようとする。

バンド「(小田の振りの「おー」のタイミングに合わせて) ええー——？」

バンド、(頭や手を振ったり、のけぞったりするなど) 身振り手振りを加えながら嫌がり、隣の人と結構やかましく愚痴を言い合う。

小「わかった。よしみんな聞いてくれ！」

バンド、愚痴をやめて小田の方を見る。

小「この中で一番上手く踊れたやつには…ディズニーランドのチケットをやろう！」

バンド、「マジ?」「えー！(驚き)」「ほしいー！」のどれかを隣の人と話し合う。

小「みんな、ディズニーに行きたいか!？」

バンド、静まる。

あっきゅん「…そうだ！」

バンド、あっきゅんに続き「そうだ!」「行きたい!」「やろう!」のどれかを隣の人と元気に言い合う。

小「(頷いてから) ならば、ダンスとはどんなものか見せてやろう！」

バンド「YEAH!」

小「なごすいとはどんなものか見せてやろう！」

バンド「YEAAAHH!!」

小「さあ…踊るぞ!!!」

バンド「YEAAAAAAH!!!」

小「ミュージック、スタート!!!」

音楽開始とともに、小田、下手の階段で降りて、近くの席に座る。現場監督のように見守る。

じょいふる

じょいふる終了。ドア開く。舞台は明るいまま。バンドは立って楽器は下ろした状態。

お初、下手で待機。

小田、客席から立ち上がって下手の階段を登りながら台詞。

小「うむ、みんな素晴らしいスタンドプレーだった！これだけ出来れば本番のショーでも上手く踊れるだろう！」

両側のドア開ける。バンド、全員隣の人と元気にハイタッチをしながら「お疲れー！」など元気に喋りながらローテ（指揮者も入る）。小田、パーカーを脱いでローテの人（ボンデ）に渡し、上手側へ移動。友美、上手の方に向かう。舞台暗転。お初、優先的に上手へ向かう。ローテが終了したらドア閉める。じょいふる降り、What 乗りのサクスの誰か、あおねのバリサクを持ってローテに入る。

スポット小田を照らす。

お初、スポットに入ってくる。

初「(正直いなくなっていて悪いと思っているのでごまかすように) あ、小田……。ダンス、疲れたね……」

友美、スポットに入ってくる。

友「お初？踊ってないだろ」

初「(ギクっとして) いやあの、心は、踊ってたよー？」

友「お菓子を前にして？」

初「(ごまかすの諦めて) エへへ」

友「エへへじゃない」

小「そうだお初、お菓子といえばディズニーにはチョコランチっていうお菓子があつてな、この種類が」

友「(さえぎって) 小田、これ以上お菓子はダメだ」

小「あ、そっか」

初「小田一、次は？」

小「ああ、次がいよいよ最後、ディズニーランドを楽しむコツ・その4だ！」

初「ええー、もう？」

小「(落ち着いて) 最後は、ディズニーランドに行った時に忘れてはならないことについてだ」

小田、いつになく真面目な雰囲気です下手側へ歩いていく。

スポット、小田を追いかける。

初友、スポットから抜けた後するっと退場。お初はローテに入る。

小「ディズニーの生みの親、ウォルトディズニーはよく娘たちと一緒に遊園地に遊びに行



っていたそうだ。しかし子供たちが遊んでいるのを、親の自分はただベンチで座って見ているだけ。そこで彼は思った。子供だけでなく、大人も一緒に楽しめるような場所が必要だ、とね。ディズニーランドは、そういう場として作られたんだ。お前たちももう大人に近づいてきた年ごろだ。昔のように無邪気にはいられないことも多いだろう」

What a wonderful world 流れ始める。ユーフォ、前へ出てくる。

ここからの台詞は、イントロの間に終わらせる。

小「でも、ディズニーランドでは、子供と一緒にあって、子供のように遊んでいいんだ。小さかった頃みたいに、ちょっとした冒険を楽しんだり、キャラクターに一生懸命手を振ったりすればいいんだ。今まで教えたどんなことより、それが一番、ディズニーランドを楽しむ秘訣なんだ」

小田、下手へ退場。下手側のドアを開けて小田を入れる。スポット消えて舞台明転。

What a wonderful world

What a wonderful world 終了。舞台暗転。暗転したらローテ（指揮者は入らない）。両側のドア開ける。お初、友美、上手に向かう。What 降り、ディズニー乗りのサククス、キャストのサククスを持ってローテ。

上手から三人登場。スポット三人を照らす。

ローテが終わったらドア閉じる。

小「これで、私から教えられることはすべてだ。あとは向こうに行って目一杯楽しんでおいで」

初「(感涙) 小田ー！ディズニーランドに行っても、教えてもらったことは、ゼッタイ忘れないよー！」

友「引っ越しする小学生か」

小「それから、(背中から隠していたカチューシャ二個を取り出す) これは免許皆伝の証だ」

小田、二人にカチューシャをそれぞれ渡す。

初「あ、これあの時のカチューシャ！」

友「あ、ありがとう」

小「(渡し終わってから) どう二人とも。楽しむコツ、分かったかい？」

初「うん、小田の話聞けて楽しかったよ！」

友「ダンスも覚えたし。心構えも、たぶん大丈夫」

小「(嬉しそうに) 良かった。帰ったらまた感想を聞かせてくれ」

友「ああ」

小「(仕切り直して) それじゃ、私は今から、(早口で) カリフォルニアとフロリダとパリと香港と上海と東京(ここまで) のディズニーランドをはしごしてくるよ！じゃあなー！」

小田、上手側に一度はけてから、ローテに戻る。

初「(しばらく呆然としてから)小田には敵わないねえ」

友「あいつ、大学の授業出てるのかな…」

友美、上手側に歩きながら話す。

お初、停止。スポットから自然に外れる。外れたらカチューシャを付ける。

友「それから少し後、私たち二人は初めてのディズニーランドに向かった。(歩くのストップ教えてもらったこと全てが役立つとは思えないが、私たちなりに楽しんでみようと思う。

(物語を畳む感じに)さあ、いよいよ出発」

初「(友美の隣に来てその言葉を遮る)ねえねえ友美」

友「(出鼻をくじかれる)…。どうした?お初」

初「(無邪気に)結局、ディズニーランドを楽しむにはどうしたらいいの?」

友「…え?…今更?」

初「今更…って?」

友「ハア…(ため息)もういい!(カチューシャを付ける)行くぞお初!ディズニーランドを楽しむぞー!(上手に向かって歩き始める)」

初「イエーイ!(手を振り上げながら友美についていく)」

少し歩いたところでスポット消える。

お初、下手に、友美、上手に向かいローテに戻る。

ディズニーランドセレブレーション